

「青春一回帰」

三八回卒「母校愛のリレー」

実行委員長

高38回 浅井 俊貴



期待に胸を膨らませての入学から3年、その後の不安と戸惑いの卒業から30年。「母校愛のリレー」の担当は、必ず順番が回ってくると思わなければならず、それぞれ思うところがあつて、互いに委員長を譲り合う機会を何度も何度も重ねて、遂に本年本番を無事終えることが出来ました。

この「母校愛のリレー」担当を終えて実感することは「これで本物の県陵OBになったのだ」です。

ともに知恵を出し合い時間を融通しあい計画を進めてきた今、隣に座っている大半の同級生たちは、ほぼ生まれて初めて話す人たちでした。

しかし「何ということでしょう!!」たった3年間同じ学校と一緒に通っていたというだけに、この強烈な「団結力」と

「連帯感」。生涯の友、仲間を一度にたくさん得たという確信があり、とても得した気分です。

今思うに、私たちはよく言われた「地域で2番目に優秀な生徒が入学している」こと、事実かどうかはどうでもよくて、間違いなく言えることは「県下ナンバー1の競争倍率」をたかだか15歳で挑戦し、くぐり抜けてきた選良達であるということです。

この厳しいセレクションが、今私たち38回卒業生が手にしている絆を強固にしている要因のひとつであると思えます。本年の「母校愛のリレー」では、この点を強調したいと思えました。可能性にあふれる若き選良たちへ贈る言葉として「未来を発明するために今出来ること」として、同期4人に語ってもらいました。

県ヶ丘高校を卒業しそれぞれの道を歩んできた私たちですが、当時まだ珍しかった海外での生活を高校時代、大学時代、社会人とそれぞれの段階での貴重な経験を語ってもらうことにより、一人でも多くの後輩の皆さんが自分の持つ可能性に気付き、それを強く信じて自分の道を歩んでくれると信じています。応援練習も三大精神も素晴らしい。だけど、小松先生！僕はどうしても言いたいです。三大精神にもうひとつ加えて頂きたかった。[Be Ambitious.] って。



高38回卒にも「リレー」好きを継ぎたいという声

十七回卒 『卒業五十周年同期会』

17期会会長 赤羽 厚志



昭和四十年三月、県陵の門から大きな夢と希望を抱いて羽ばたいていった仲間が卒業五十年を迎えました。

私たちは終戦直後に生を受けた団塊の世代のはしりで、国民自らが民主主義の重要性を認識し、政治も経済も教育も大きく変化する学生時代を過ごしました。卒業後社会に出てからは高度経済成長、オイルショック、グローバル化、また最近では急激な人口減少・少子高齢化社会の進展等、様々な社会の変動のなかで歩んできた半生でした。

記念すべき同期会を開催するにあたり、多くの仲間から数々の要望が寄せられ、検討の結果、母校愛を一層深め、同期生の友情と今後の絆づくりに努めていくことを目標に掲げました。

十月二十四日(土)、記念事業として母校西側の生徒昇降口前に記念樹(イロハモミジ)を寄



贈し、その後仲間が一同に会し盛大に祝賀会を実施しました。多くの方々から趣旨に賛意いただき、盛大に五十周年記念事業ができたことを関係各位に感謝します。

時代の移り変わりとともに人間の考えや思いは少しずつ変化していきませんが、我ら十七回生はいつの時代でも『我が人生の起点はここ県陵にあった幸運』を感謝し、これからの人生を悔いなく生きて、今後何度でも同期会が開催でき、友情と絆が一層深まることを願って止みません。

母校並びに同窓会のご発展を願って、皆さん、ありがとうございます。



県陵17期卒業50周年記念同期会